

竹広表の戦いと西郷の局

月ヶ谷城主の西郷正勝は五男一女をもうけましたが、その一女が戸塚忠春に嫁いで産んだのが通称「お愛の方」です。お愛が生まれて2年後に忠春は討たれて亡くなります。母は幼い「お愛」をつれて実家にもどり、今度は服部正尚に嫁ぎます。その家で成長したお愛は、西郷正勝の孫(元正の子)で西郷家を継いだ従姉妹の義勝に嫁ぎ、一男一女を産みます。

しかし、義勝は元龜2年(1571)、竹広表の戦いで戦死します。信玄が遠江、三河への侵攻をはかり、武田氏配下の秋山信友、山県昌景が三河に侵入。縁戚である菅沼定盈の要請を受け、竹広において合戦に及びました。定盈、西郷清員等の奮戦により秋山信友の武田軍を一時的に退けることに成功しましたが、義勝はこの戦いで命を落としてしまいました。

西郷家にもどったお愛は、7年後の天正6年(1578)春に、叔父にあたる清員の養女として徳川家康に召されます。浜松城に上り側室となり、西郷の局とよばれます。そして翌年天正7年(1579)4月、2代将軍となる秀忠を産むのです。また、天正8年(1580)には松平忠吉(後に尾張清洲52万石)が産みました。西郷の局は天正17年(1589)、家康が京都滞在中に駿府城で38歳で逝去しました。竹広の戦いがお愛の運命を大きく変えることになったのです。

西郷家は、義勝の死後、清員の子家員が継ぎました。武田氏との抗争が佳境をむかえる天正2年(1574)、武田勝頼の家臣山県昌景が西郷に侵入した折、家員は菅沼定盈とともにこれを撃退しました。

家員は、天正3年(1575)の長篠の戦いでは、酒井忠次に属し、定盈とともに鳶ヶ巣攻めに加わっています。

その後は家康に従い、天正18年(1590)関東移封の際、下総国(千葉)で5千石を賜り、家員の子正員は1万石の大名になっています。



西郷の局 (お愛の方)

<参考資料>

- ・豊橋市史
- ・八名郡誌
- ・古城の風景
- ・東三河の戦国時代

西郷の局ってどんな人

<ウィキペディアより 分かりやすく部分修正>

西郷局（さいごうのつぼね） 天文21年（1552）～天正17年（1589）

戦国時代・安土桃山時代の女性。戸塚忠春の娘という。通称お愛の方。徳川家康の側室として知られ、最愛の側室だったともいわれている。院号は竜泉院，宝台院。

三河西郷氏は、現在の豊橋市西郷校区辺りに本拠を置いていた。2代征夷大將軍徳川秀忠生母西郷局（名は愛）を出した外祖父・西郷正勝の頃には、三河での影響力は今川義元の傘下で命脈を保っている程度にしか過ぎなかった。母は今川氏の命であろうか、遠江国の戸塚忠春に嫁いでいる。

成長して最初の夫に嫁いだものの、先立たれて寡婦となっていた。そこを、同じく正室に先立たれた従兄・西郷義勝の継室に望まれたという。義勝との間に一男一女をもうけている。一説には義勝が最初の夫であるとも言われる。

元龜2年（1571），武田氏の先遣，秋山信友（虎繁，晴近）の南進を阻むため，縁戚の野田菅沼氏に協力した竹広合戦で，義勝が落命する。またしても未亡人となったが，彼女の産んだ男子は幼過ぎて家督が継げなかった。

やがて母の弟，西郷清員の養女として徳川家康の側室に望まれ，江戸幕府第2代將軍徳川秀忠，松平忠吉の生母となった。しかし，天正17年（1589）に38歳の若さで死去した。死後の寛永5年（1628）になって，正一位が贈られた。

西郷局は美人で，また温和誠実な人柄であり，家康の信頼厚く，周囲の家臣や侍女達にも好かれていた。また強度の近眼であったらしく，とりわけ盲目の女性に同情を寄せ，常に衣服飲食を施し生活を保護していた。そのため西郷局が死去すると，大勢の盲目の女性達が連日，寺門の前で彼女のために後生を祈ったという。なお，不確定ではあるが西郷局の死因は，罪が不確定のまま殺害された家康の正室築山殿に仕えていた侍女の殺害，毒殺という説もある。

秀忠の異父兄に当たる彼女の残した男子は徳川頼宣（紀州徳川家）付けになるなど，西郷一族は秀忠の治世で優遇される。しかし，秀忠が家康ほど長命でなかったため，その栄華は極めて短かった。叔父・清員の家系が，安房国東条藩の大名に取り立てられたのが最高である。ところが時代が流れて綱吉の頃には勘気を被って大名の座から転落，5千石の旗本となっている。6代將軍家宣の頃に1万石に回復するが，その5千石もいとも簡単に失い，元の5千石に戻ったといわれている。

（文責：八名郷土史会 安形茂樹）